

「しりべし一般教養テスト」の作題を通じた地域理解の試み～テスト理論に基づく地域連携と興味喚起の実践～

プロジェクト代表者:辻 義人

1. プロジェクトの目的・概要

【地元の方々に愛される「ご当地検定」とは？】

- ・各地域には、各地域の特色があり、そこに住む人々の愛着がある。
- ・「地元の方々」には当然のことであっても、異なる地域にとって「珍しい、価値がある」ことがある。
- ・地域に対する愛着を高め、理解を促す手法として「ご当地検定(おたる案内人など)」がある。
- ・学生に、小樽・後志地域に関する「ご当地問題」を作題させ、地域への理解・興味関心を高める。

【テスト理論に基づく検討】

- ・テスト理論とは「そのテストが適切なものか、そうでないか」を判断する考え方である。
- ・極端な例として、世界史のテスト問題で「イギリスで産業革命が生じたのはなぜか？」という問いを、スペイン語で出題したとき、それに解答するには、世界史とスペイン語の両方の知識が求められる。これは、世界史の理解度を測定するには不適切である。
- ・「テスト問題が適切か、そうでないか」を検討する指標として、ここでは「①弁別指数」と「②IT相関」の2つに注目する。

①弁別指数: あるテスト問題について、上位群と下位群の正答率の差を調べる(上位群の正答率-下位群の正答率)。この数値が小さい場合、テスト問題として不適切である。(0.4を超えることが望ましい)

②IT相関(ITEM-TOTAL相関): その個別の問題と、全体の正答率の相関係数を求める。この値が高いほど、この個別問題とテスト全体の成績に強い関係性が見られる。

2. プロジェクトの進捗状況について (～H28.10)

【おたるご当地クイズの試作・検証(H28.10～11)】

ご当地クイズの試作として、小樽ご当地検定(おたる案内人)を参考としたクイズを作成・実施し、テスト理論に基づく検証を行った(弁別係数、および、IT相関による検証)。調査はウェブ上で実施し、有効回答数は234件であった。以下に、「良問」と「危険な問題」の例を掲載する(正答に下線)。

[良問と考えられる問題]

- ・昭和61年(1986年)に制定された「小樽市の鳥」はどれでしょうか。(タンチョウ、アカゲラ、エトピリカ、アオバト)
- ・北海道で初めての鉄道である官営幌内鉄道は、現在の小樽市と、どの市町村を結んだものでしょうか。(三笠市、岩見沢市、南幌町、夕張市)
- ・明治40年(1907年)に当時の新聞社「小樽日報社」に勤め、水天宮に歌碑が残る詩人は誰でしょうか。(石川啄木、齋藤茂吉、佐佐木信綱、伊藤整)

[要注意・不適切と考えられる問題]

- ・かつて朝里駅と銭函駅の間に位置し、平成18年(2006年)に廃止されたJR函館本線の駅はどれでしょうか。(張碓駅、春香駅、恵比須駅、浜小樽駅)→正答率が高い(88.6%)
- ・小樽港フェリーターミナルから、定期航路が設定されている港はどれでしょうか。(新湊港、新門司港、仙台港、函館港)→正答率が高い(92.3%)
- ・小樽市が平成16年(2004年)から製造しているボトルドウォーター「小樽の水」は、何を記念して製造を開始したものでしょうか。(近代水道百選、近代水道創設90周年、市制80周年、観光都市宣言)→弁別係数の低さ(上位群と下位群に正答率の差が見られない)

3. 今後の取組予定について

- ・テスト理論を用いた「ご当地検定」の検証は、十分に可能なことが判明した。
- ・学生に教示を行い「しりべし一般教養テスト」問題の作題と、ウェブ上での検証を実施する。